



院内の医療安全の研修会 北澤弁護士の講演会

医療の安全を守る。 患者としての体験を踏まえて

医療安全室長 杉山登志子

「医療安全管理室」が開設されて三年経った。本当にこの病院で、現場で安全な医療が行われているか検証する機会を得た。急な入院、手術で術前検査や手続きを受けたがその部署で当然のごとく「患者確認」をしながらすすめていく。何度も名前を問いなおされても違和感はなくすぐ応じられる。入院するとすぐ「ネー



北澤弁護士

ムバンド」が確認のもとにはめられる。手術室に入る際にも複数で病棟から「呼名」と「カルテ」で引き渡された。術後も次々と点滴や追加薬品が使われたがその都度「お名前を覚えて下さい」である。意識がもうろうとしていた時は付添の家人に「すみませんがお母さんは眠っているようなので代わりに私と一緒に名前を確認してください」というナースの声が遠くに残っている。何度でも同じ行為が同じ基準や規則ですべての部署と職員が実施する。これが安全管理活動で患者さんを守ることの基本であると思うし病院の強みである。自分の責任において「安心と安全をまもるのは病院職員として最大の義務であり、職員も守られているという安心がなければ出来ないことである。活動が根づいてきている、守られているということが患者として実感できた日であった。

ヘルパー研修

外国人が安心して受診環境づくり

外来 深谷敬子

近年、外国人が受診される人数もふえる中、不安なく病院にかかる事ができるようにと、私達外来ヘルパーは「患者様が安心して受診できる環境づくり」を研修目標に活動してきました。特にブラジルの方が受診する機会が多いので、ポルトガル語での院内表示、各科共通での検査説明文を作成してみました。読み方も発音もわからないため、講師、樋代典子先生の指導のもと、まずは日常会話、挨拶などを教えていただきました。「Bon dia(ボンヂーア)おはよう(う)ございます」「Tudo bem?(トゥドベン)お元気ですか?」と簡単な挨拶はみなさんできるようになったようです。そしてポルトガル語での病院案内図や説明文を作り上げることができました。救外、総合案内には、日本語、英語、ポルトガル語の案内図を設置してあります。受診してきた外国人に役に立っているようです。少しでも患者様が安心して受診できるお

手伝いができたのではないでしょうか。

部署の違うヘルパー13名が一つの目標に向かって活動していくことは大変な部分もありましたが、お互いに理解しあいながら仕事をすることの大切さを学びました。今後ひきつづき患者側に立ち、安心して病院に受診できるように、継続していきたいと思えます。



外来ヘルパーのみなさん